

【研究報告（2019年度）】

チーム③ 中高年期の社会活動支援・活力ある高齢者の研究チーム（③-2）
産学官民連携による高齢者活動広域的サポート事業の開発

馬場みちえ^{1,*}、宮林郁子¹⁾、吉川千鶴子¹⁾、宗正みゆき¹⁾、
牧香里¹⁾、石橋曜子¹⁾、上野珠未¹⁾、隈本寛子¹⁾

1) 福岡大学医学部看護学科、*) 責任者

要 旨

2019年度はプログラムを受講した企業社員による高齢者ケアサポートの第一段階がスタートした。協力機関(福岡市、福岡市社会福祉協議会、早良区社会福祉協議会)とともに、田隈校区住民、民生委員との連携しながら地域高齢者ケアサポートを展開した。地域高齢者側から企業社員が地域とともに見守り活動することへのニーズが大きい。産学官民連携しながら、企業と地域がどのようなサポートへとつなぐことができるかどうか、社会福祉協議会や外部機関と検討・評価することが重要である。

1. 緒 言

超高齢・長寿時代に相応しい新しい地域包括ケアシステムの構築が求められている。産学官連携に住民を巻き込んだ産学官民連携が重要となってきたが、その具体的な実現例は少ない。本学では、2017年度から2018年度の2年間、壮年期世代の企業社員が、地域で生活している高齢者、独居高齢者、要介護高齢者に対して質の高いケアサポートを実施するための教育プログラムを開発し人材育成に取り組んできた。

これまでに検針巡回時の高齢者の見守りやコミュニケーションを通してサポートすることや、巡回時に高齢者に対する緊急時の対応が適切にできるようになってきた。それらのことを踏まえ、2019年度は、いよいよプログラムを受講した企業社員による高齢者ケアサポートがスタートした。【産】企業社員の活動に、【官】である協力機関(福岡市、福岡市社会福祉協議会、早良区社会福祉協議会)とともに、【民】T校区住民、民生委員との連携のもとに地域高齢者ケアサポートを展開した。

2. 方 法

2019年8月からモデル地区に設定した福岡市早良区田隈校区を対象として、企業社員によ

る高齢者ケアサポートを開始することとした。ケアサポートの目的は田隈校区で企業社員が、①高齢者ふれあいサロンに参加しながら信頼関係の構築を行い、②生活支援ボランティアを兼ね、③企業社員による独居高齢者や虚弱高齢者の見守りや声掛け、社会参加促進など「健康」「ケアというまなざし」を持って実施できることを目指した。プログラムの有効性は、企業社員だけでなく、地域高齢者、住民、民生委員の意見をアンケートおよびインタビューを求め総合的に評価した。

2019年度研究活動スケジュール

	4月～7月	8月～3月		
地域との連携	社協 行政協議 準備打ち合わせ 試行期間 研修	ふれあいサロン参加 —独居高齢者サポート 9月キックオフミーティング開催	1月 高齢者サ ポートフ ォローア ップ研修 開催	3月 振り返 り評価
連携機関	福岡市社会福祉協議会との連携 民生委員、自治会協議会 サロン代表者、住民、検針代表との連携		2月見守 り会議 参加	
	UR・都市機構との連携 ユアメイト等との連携打ち合わせ		2月打ち 合わせ会 議開催	

3. 研究結果

(1) 独居高齢者サポートへの評価

① 企業社員によるサポート評価

地域の高齢者ケアサポートに対する企業社員の認識を明らかにすることを目的に、高齢者サロンに参加する企業社員を対象として質的帰納的研究デザインで調査を実施した。結果は、企業社員が高齢者と交流する経験を重ね、互いに信頼関係を築く中で地域高齢者サポートに対する意欲が高まってきた。地域へ関心を広げ、業務と合わせた活動や自社内および外部機関との連携など考え始めていた。

② 地域独居高齢者による評価

ふれあいサロンに通う65歳以上の高齢者に対し、企業社員が高齢者にケアサポートする上で大事なことについて半構成的グループインタビューを実施した。その結果認知症、災害対策に対し、住民相互の助け合いのニーズがあった。企業社員には、地域に馴染む、信頼関係を築くことを通して世代間交流、全ての高齢者の社会参加を促すサポートへのニーズが明らかとなった。

③ 福岡市社会福祉協議会からの評価

福岡市社会福祉協議会では、地域の見守りの目を増やす、つながりをつくるということで活動をしている。その中で企業社員が地域での活動に参加していただくことは大変歓迎されている。企業社員は企業としての使命を理解しているのでその地域に合った一番いい方法でつないでいきたいと考えていた。

①～③のいずれも福岡大学医に関する倫理委員会の審査を受け承認(U19-423)を得て実施した。

(2) 検針員フォローアップ研修

2017年度に研修を実施した検針員に対してフォローアップ研修として、「自分のこころとひとのこころ」と「防災一助けられる人から助ける人へ」の講演会を実施した。検針員の皆さん熱心に耳を傾けて講演を聞かれており、コミュ

ニケーションということ、防災ということに関して関心が高まっているようであった。

4. 考察

地域の高齢者は、健康の維持や安心・安全な生活を維持することに関心が高く、認知症、災害対策に対し、危機感を持っている。適切な対応について自ら学ぶと同時に、地域住民相互、あるいは周囲の多機関とともに助け合うことを望んでいる。産官学民が連携しながら企業社員が地域になじみ、信頼関係を築くことで高齢者の社会参加を促すサポートへとつながっていくと考えられ、今後の展開が期待される。

6. 研究発表

論文発表

馬場みちえ、石橋曜子、吉川千鶴子、宗正みゆき、上野珠未、牧香里、大城知子、宮林郁子. 産学官連携による地域高齢者ケアサポートのためのコミュニケーションスキル育成プログラムの開発・評価. 福岡大学医学紀要印刷中

学会発表

1. 馬場みちえ、石橋曜子、吉川千鶴子、宗正みゆき、牧香里、上野珠未、隈本寛子. 産学官民連携からみた企業社員による地域高齢者ケアサポートシステムの構築(第3期). 第39回日本看護科学学会交流集会. 2019. 12月
2. 吉川 千鶴子、上野珠美、馬場みちえ、石橋曜子、宗正みゆき、牧香里、隈本寛子、宮林郁子. 産学官連携による企業社員による地域高齢者ケアサポートへのプログラム構築—第1報 検針員へのコミュニケーション向上スキル教育研修の評価. 日本健康支援学会. 2020年3月
3. 上野 珠未、吉川千鶴子、馬場みちえ、石橋曜子、宗正みゆき、牧香里、隈本寛子、宮林郁子. 産学官連携による企業社員による地域高齢者ケアサポートへのプログラム構築—第2報 企業社員へのプログラム開発のための基礎的研究. 日本健康支援学会. 2020年3月
4. 宗正みゆき、隈本寛子、石橋曜子、牧香里、吉川千鶴子、上野珠未、馬場みちえ、宮林郁子. 産学官連携による企業社員による地域高齢者ケアサポートへのプログラム構築—第3報 企業社員のふれあいサロンへの参加に対する地域高齢者の認識. 日本健康支援学会. 2020年3月
5. 石橋曜子、上野珠未、牧香里、宮林郁子、馬場みちえ、宗正みゆき、吉川千鶴子、隈本寛子. 産学官連携による企業社員に対する地域高齢者ケアサポートのプログラム構築—第4報 ふれあいサロンに参加する企業社員の地域高齢者ケアサポートに対する認識. 日本健康支援学会. 2020年3月

7. 知的財産権の出願・登録状況

なし